



ポプラ祭中止 しかし… ～本校に愛情をそそいでくださる皆様へ～

突然のコロナ対応で、急転直下の対応を迫られたうえでの苦渋の判断でした。生徒会をはじめとする在校生の諸君も2年越しの準備をしてきただけに、落胆も大きかったと思います。

しかし、この間さまざまな方々と知り合い、地域の方々とふれあい、業者さんを含め苦楽を共にし、さまざまな打ち合わせを経て、生徒も職員も大切なものを学ばせていただきました。保護者の皆様、関係の方々、地域の方々には大変感謝をしています。

先日、ある3年生の進学希望者に面接練習をしました。その生徒は、学校では生徒会活動に一生懸命取り組んだこと、そこで得たことは「人との和を大切にし、リーダーシップをとる力が身につきました。」と胸を張って答えていました。私はその生徒の合格を確信するとともに、行事そのものよりも、その過程で得た形のないものこそが、子どもにとっては真の「宝物」なのだ改めて気づかされた次第です。

また、多くの方々の浄財で新調された緞帳や電子ピアノもありますし、それに120年という長い歴史



蓼科 CTV 様による収録風景

史はポプラ祭や式典が有る無しにかかわらず、何ら変わるものではありません。さらに、ポプラ祭と周年行事を今後に生かす取り組みが始まっています。すでに、講演会講師の藤田先生と本校生徒との講演会の再計画がはじまり、蓼科ケーブルテレビジョンでは、舞台発表の収録と放送を行ってくださいました。また、2年間にわたり映像を担当して下さっているテレビ信州エンタープライズでは、すべてを記

念映像に残すために、取材に来てくださっています。最後に、この栄えある本校の歴史を祝い、今後につなげていきたいと思っておりますので、これからもご指導をよろしくお願いいたします。



生徒がつくった作品をみんなで共有

困ったお話(その44) (前のめりの防災訓練)

9月5日(日)は、実家がある小川村の防災訓練がある日だ。私は朝から張り切っていた。訓練では、消防団の手による消火器講習会がある予定だ。思えば、村に引っ越してきてから消防団に入り、14年間お世話になった。平日はもちろん、休日も部活等で欠勤しがちだったが、それでも春秋の火災予防週間、出初式、年末警戒、ポンプ操法などに参加できた。何度か火災出動もした。私の勇敢な殊勲の数々は、思い出せないものを除くと、やっぱり思い出せない。



消防団は地域のきずな

住宅火災の消火作業を実際に経験した人ならわかってもらえるが、屋根や屋内に水をまいただけでは、火はまったく消えない。トタンを剥いで屋根裏に長時間水を打ったり、布団を一枚一枚広げてぐしょぐしょにしても、数時間すると息を吹き返すのだ。その恐ろしさを知るとともに、翌朝仕事がありながらも地域の安全のために夜を徹し力を合わせ警戒する、かけがえのない大切な役割を身をもって経験した。

おや? 変だ。予定の8:30になってもサイレンはならないし、放送も入らない。きっと、役場の放送施設が故障したのに違いない。緊急出動だ! 私は家を飛び出し走って集合場所に行くと、消防団員が一人いた。

「あれ、知らなかった? 今日はコロナ蔓延防止対応のため、中止です。」